

「第8回世界青年意識調査」の結果について

平成21年3月
内閣府

1 調査の目的

本調査は、我が国の青年の意識の変化を時系列でとらえるとともに、諸外国の青年の意識と比較することにより、我が国の青年の意識の特徴及び問題等を的確に把握し、青少年施策の検討の参考とすることを目的とする。

2 調査領域

- (1) 家庭関係 (2) 学校関係 (3) 職業関係
(4) 地域社会・ボランティア関係 (5) 国家・社会関係
(6) 情報通信関係 (7) 人生観関係

3 調査対象

- (1) 調査対象国 (() 内は標本回収数)
日本 (1,090)、韓国 (1,000)、アメリカ (1,011)、イギリス (1,012)、フランス (1,039)
(2) 調査対象者
18歳から24歳までの青少年
・日本、韓国、アメリカ：平成19年11月1日現在
・イギリス、フランス：平成20年9月1日現在

4 調査時期

- ・日本、韓国、アメリカ：平成19年11月～12月
・イギリス、フランス：平成20年9月～10月

5 調査の方法

調査員による質問紙を用いた個別面接調査（各国とも1,000サンプル回収を原則）

6 過去の調査

第1回調査（昭和47年）、第2回（昭和52年）、第3回（昭和58年）、
第4回（昭和63年）、第5回（平成5年）、第6回（平成10年）、第7回（平成15年）

[本件問い合わせ先]

内閣府政策統括官（共生社会政策担当）付 青少年育成第1担当

調査官 森 伸子
補佐 難波 康修
主査 荒井 寛

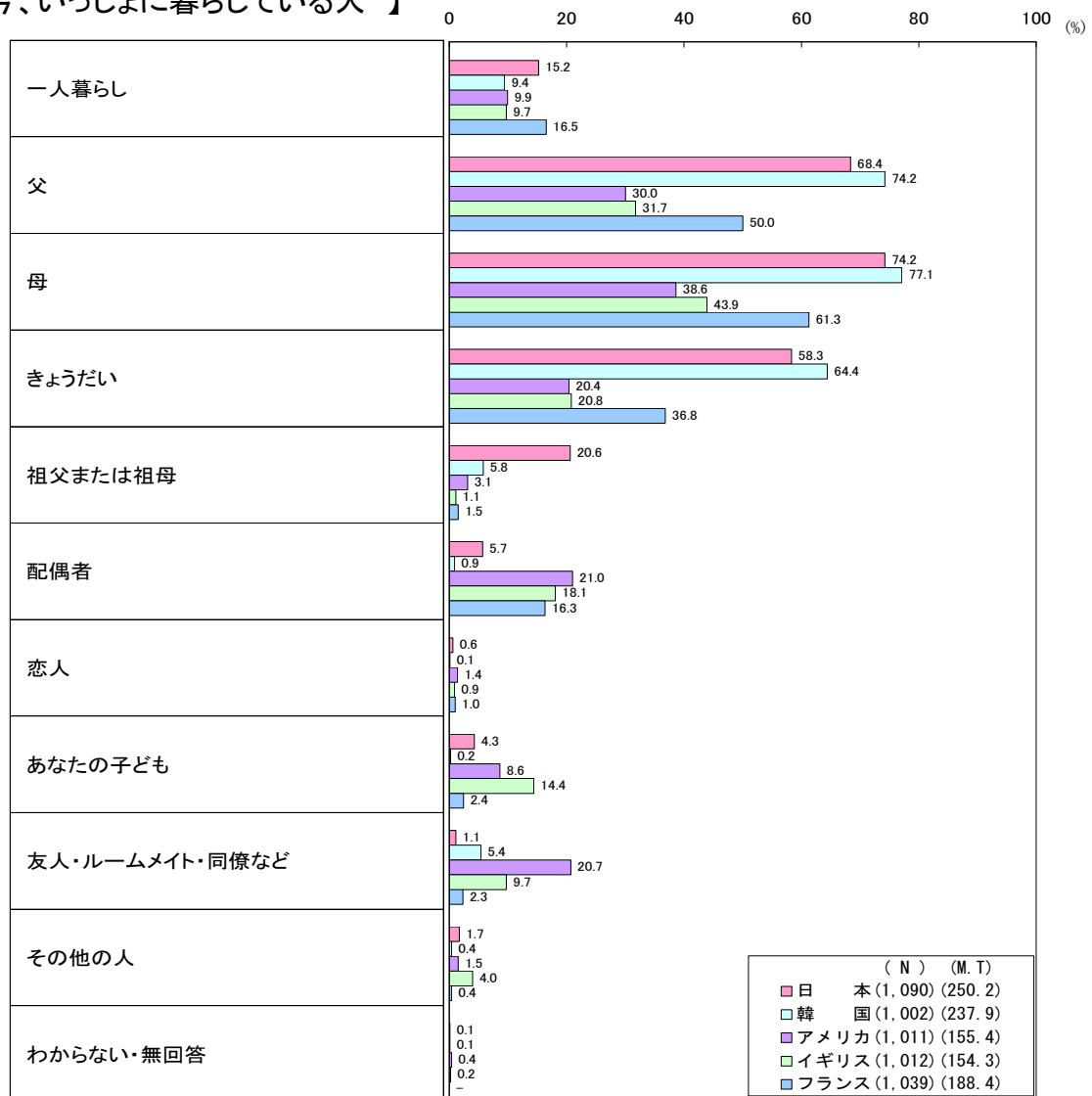
電話：03-3581-2111（44142）
03-3581-5060（直通）

家族の状況

◆ 親との同居はいずれの国でも多いが、特に日本、韓国で高くなっている。 (F4、P8・9)

- ・「母」:韓国(77.1%)、日本(74.2%)、フランス(61.3%)、イギリス(43.9%)、アメリカ(38.6%)
- ・「父」:韓国(74.2%)、日本(68.4%)、フランス(50.0%)、イギリス(31.7%)、アメリカ(30.0%)
- ・「祖父または祖母」:日本(20.6%)、韓国(5.8%)、アメリカ(3.1%)、フランス(1.5%)、イギリス(1.1%)
- ・「配偶者」:アメリカ(21.0%)、イギリス(18.1%)、フランス(16.3%)、日本(5.7%)、韓国(0.9%)
- ・「あなたの子ども」:イギリス(14.4%)、アメリカ(8.6%)、日本(4.3%)、フランス(2.4%)、韓国(0.2%)

【 今、いっしょに暮らしている人 】



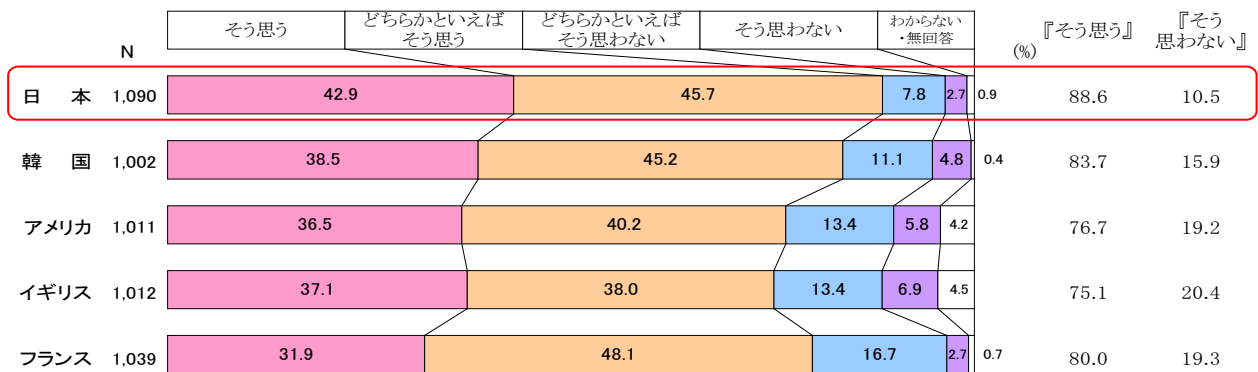
〔時系列比較:第6回(H10)～第8回(H20)〕

	N	一人暮らし	父	母	きょうだい	祖父または祖母	配偶者	恋人	あなたの子ども	友人・ルームメイト・同僚など	その他の人	わからない・無回答
第6回	1,047	11.9	73.7	79.2	61.8	24.7	7.4	*	4.9	0.8	0.4	-
第7回	1,042	14.2	71.0	75.4	60.4	22.5	6.9	*	4.7	1.2	0.7	0.2
第8回	1,090	15.2	68.4	74.2	58.3	20.6	5.7	0.6	4.3	1.1	1.7	0.1

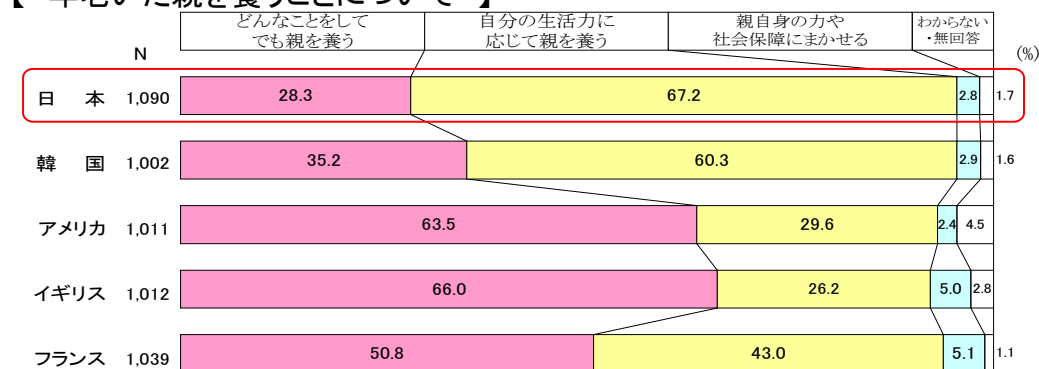
親子関係に関する意識

- ◆ 親からの経済的自立に関する意識は、五か国で日本が最も高い。 (Q1、P10・11)
 - ・「子どもは親から経済的に早く独立すべきだ」という考え方について
『そう思う』: 日本(88.6%)、韓国(83.7%)、フランス(80.0%)、アメリカ(76.7%)、イギリス(75.1%)
- ◆ 年老いた親を養うことの意識は、欧米に比べ、日・韓で弱い。 (Q2、P12・13)
 - ・年老いた親を養うことについてどう思うか
「どんなことをしてでも親を養う」: イギリス66.0%、アメリカ63.5%、フランス50.8%、韓国35.2%、日本28.3%
- ◆ 自分の子どもに老後の面倒をみてもらいたい日本の青年は5割弱で、韓国に次いで低い。 (Q3、P14)
 - ・「自分の子どもに老後の面倒をみてもらいたい」と思うか
『そう思う』: イギリス70.1%、アメリカ67.5%、フランス62.3%、日本47.2%、韓国41.2%

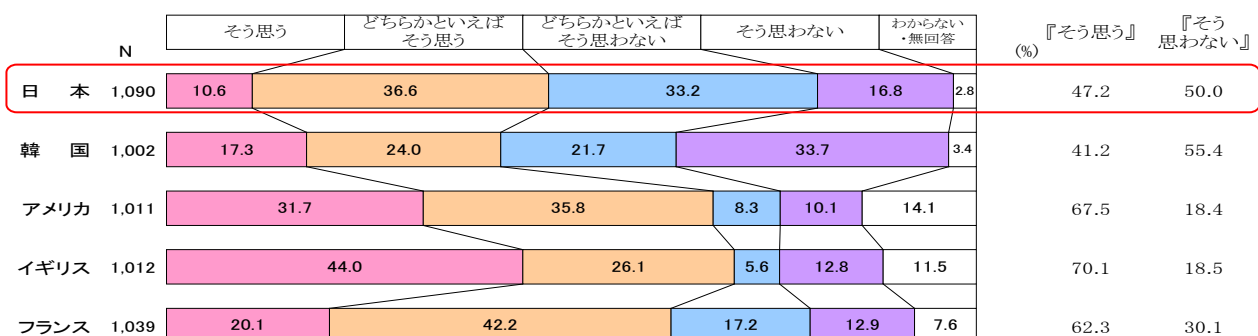
【「子どもは親から経済的に早く独立すべきだ」】



【 年老いた親を養うことについて 】



【「自分の子どもに老後の面倒をみてもらいたいか」】



学校に通う意義

◆ 日本は「友達との友情をはぐくむ」、韓国は「学歴や資格を得る」、アメリカ、イギリス、フランスは「一般的・基礎的知識を身に付ける」がもっとも高い。(Q8、P24・25)

・「友達との友情をはぐくむ」:

日本(65.7%)、韓国(41.2%)、イギリス(40.2%)、アメリカ(39.2%)、フランス(16.3%)

・「自由な時間を楽しむ」:

日本(32.5%)、アメリカ(26.8%)、イギリス(22.7%)、韓国(14.7%)、フランス(11.2%)

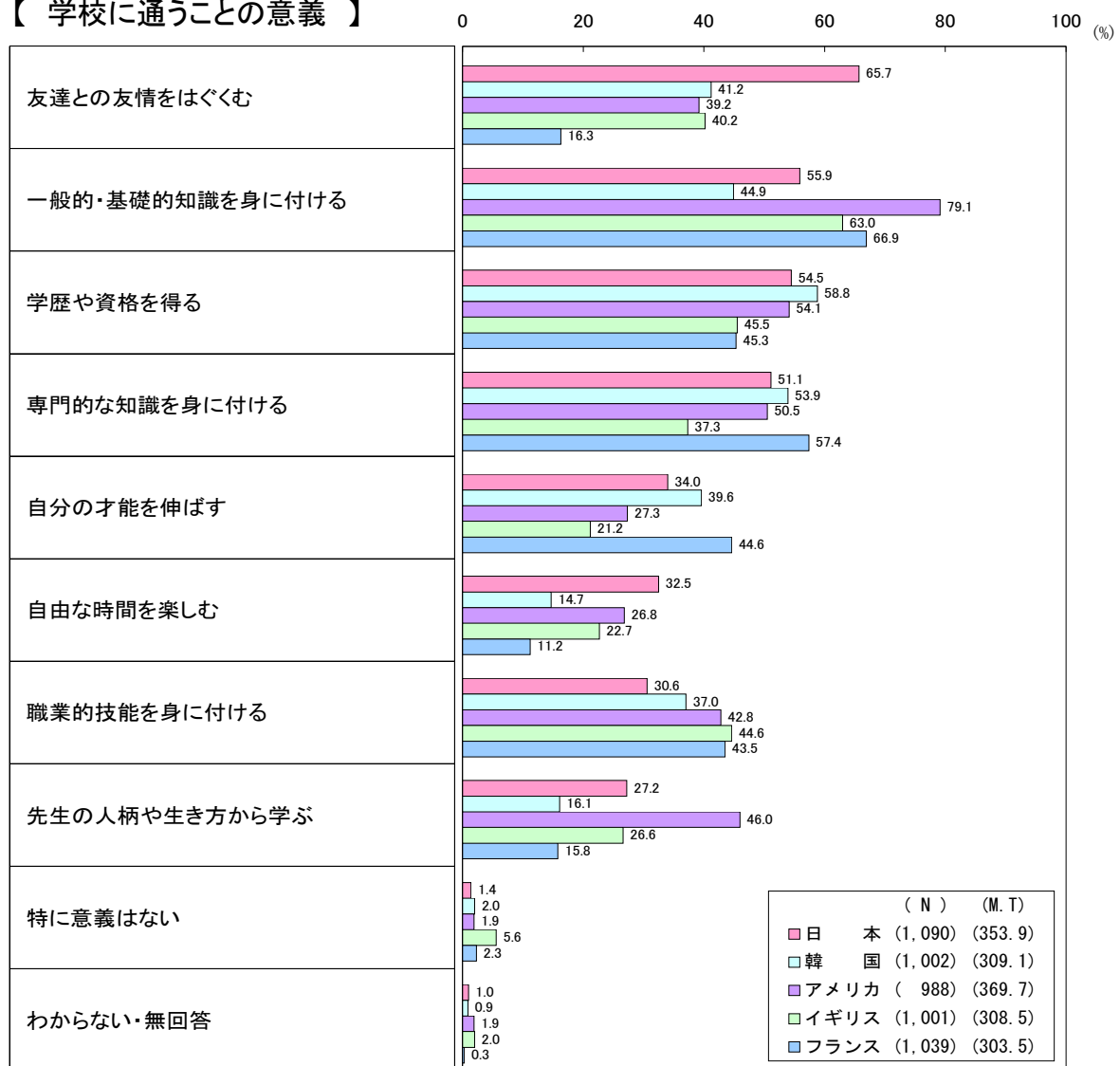
・「職業的スキルを身に付ける」:

イギリス(44.6%)、フランス(43.5%)、アメリカ(42.8%)、韓国(37.0%)、日本(30.6%)

・「一般的・基礎的知識を身に付ける」:

アメリカ(79.1%)、フランス(66.9%)、イギリス(63.0%)、日本(55.9%)、韓国(44.9%)

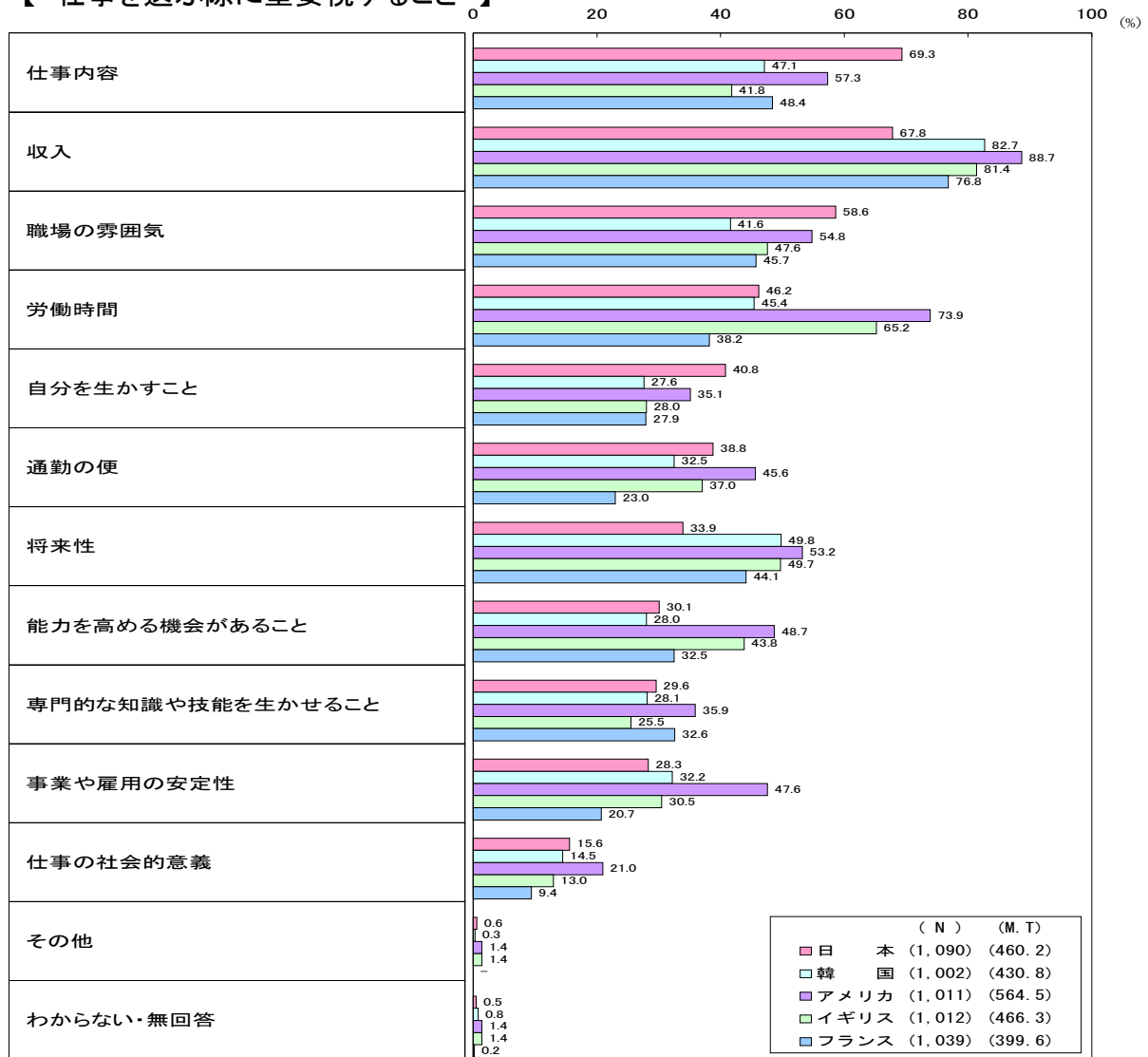
【 学校に通うことの意義 】



職業選択の重視点

- ◆ 日本では、「仕事内容」、「収入」、「職場の雰囲気」の順。 (Q20、P46～48)
 - ・「仕事内容」(69.3%)、「収入」(67.8%)、「職場の雰囲気」(58.6%)、「労働時間」(46.2%) 等
 - ・「職場の雰囲気」:第7回(H15)44.3% → 第8回(H20)58.6%
- ◆ 日本以外の四か国では、「収入」が最も高い。
 - ・「収入」:韓国(82.7%)、アメリカ(88.7%)、イギリス(81.4%)、フランス(76.8%)、日本(67.8%)

【 仕事を選ぶ際に重要視すること 】



〔時系列比較:第7回(H15)～第8回(H20)〕

	N	仕事内容	収入	職場の雰囲気	労働時間	自分を生かすこと	通勤の便	将来性	能力を高める機会があること	専門的な知識や技能を生かせること	事業や雇用の安定性	仕事の社会的意義	その他	わからない・無回答
第7回	1,042	66.6	64.9	44.3	44.9	37.1	38.1	28.6	20.7	25.4	19.6	9.6	0.2	1.1
第8回	1,090	69.3	67.8	58.6	46.2	40.8	38.8	33.9	30.1	29.6	28.3	15.6	0.6	0.5

◆ 日本では、「結婚していない」が93.4%、「結婚している」が5.9%。(F3、P7)

○ 5か国比較

- ・「結婚していない」:韓国(98.8%)、日本(93.4%)、フランス(83.6%)、イギリス(80.6%)、アメリカ(75.1%)
- ・「結婚している」:アメリカ(11.1%)、日本(5.9%)、イギリス(2.9%)、フランス(2.4%)
- ・「事実婚のパートナーがいる」:イギリス(15.7%)、フランス(14.0%)、アメリカ(10.5%)

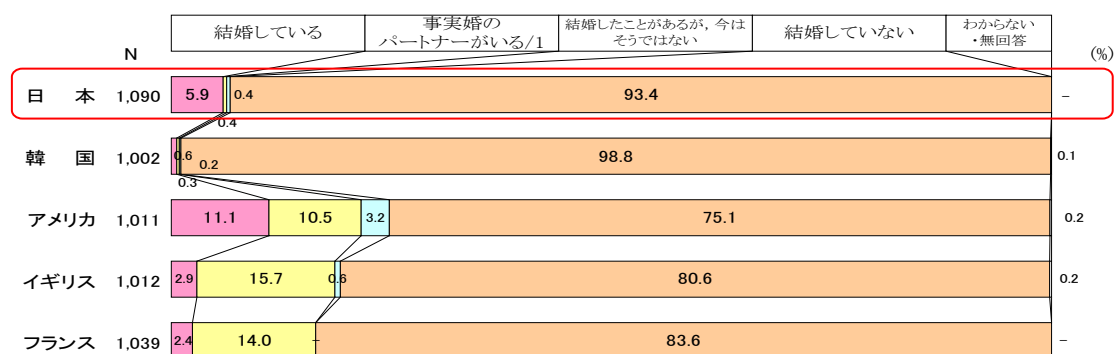
◆ 日本では、結婚に肯定的な考え方が5か国の中でもっとも高く、また、再増加傾向にある。

- ・結婚に肯定的な考え方(「結婚すべきだ」+「結婚したほうがよい」) (Q52、P114・115)

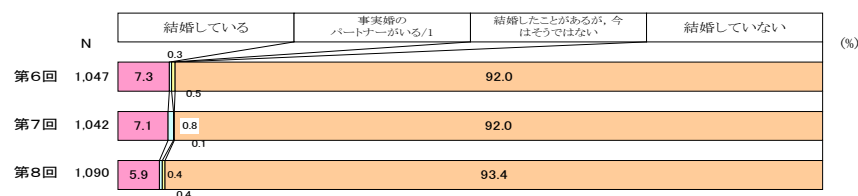
○ 5か国比較: 日本(77.3%)、韓国(73.3%)、アメリカ(59.7%)、イギリス(42.0%)、フランス(41.2%)

○ 日本時系列比較: 第6回(H10)68.9% → 第8回(H20)77.3%

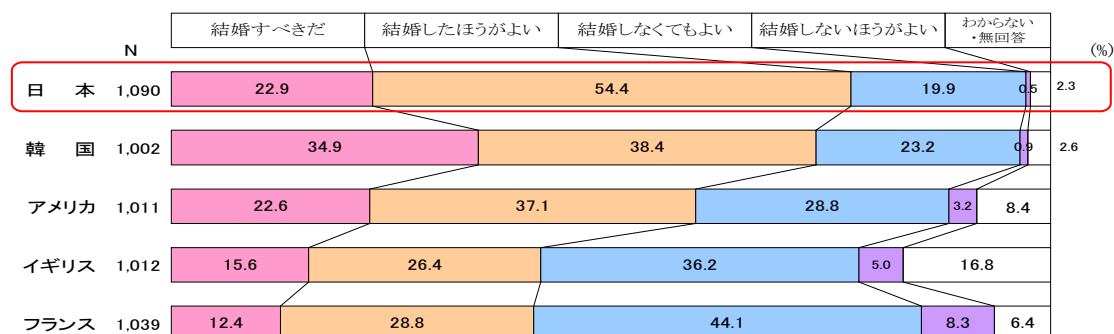
【 未婚・既婚の状況 】



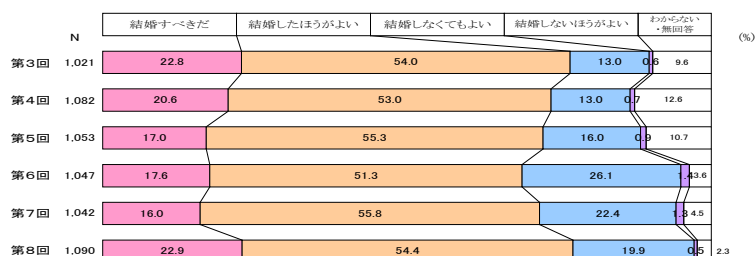
1 結婚していないが、事実婚のパートナーがいる
〔時系列比較: 第6回(H10)～第8回(H20)〕



【 結婚についての考え 】



〔時系列比較: 第3回(S58)～第8回(H20)〕



結婚したほうがよい理由

◆ 結婚したほうがよい理由：日本では、「自分の子どもや家族をもてる」がもっとも高い。

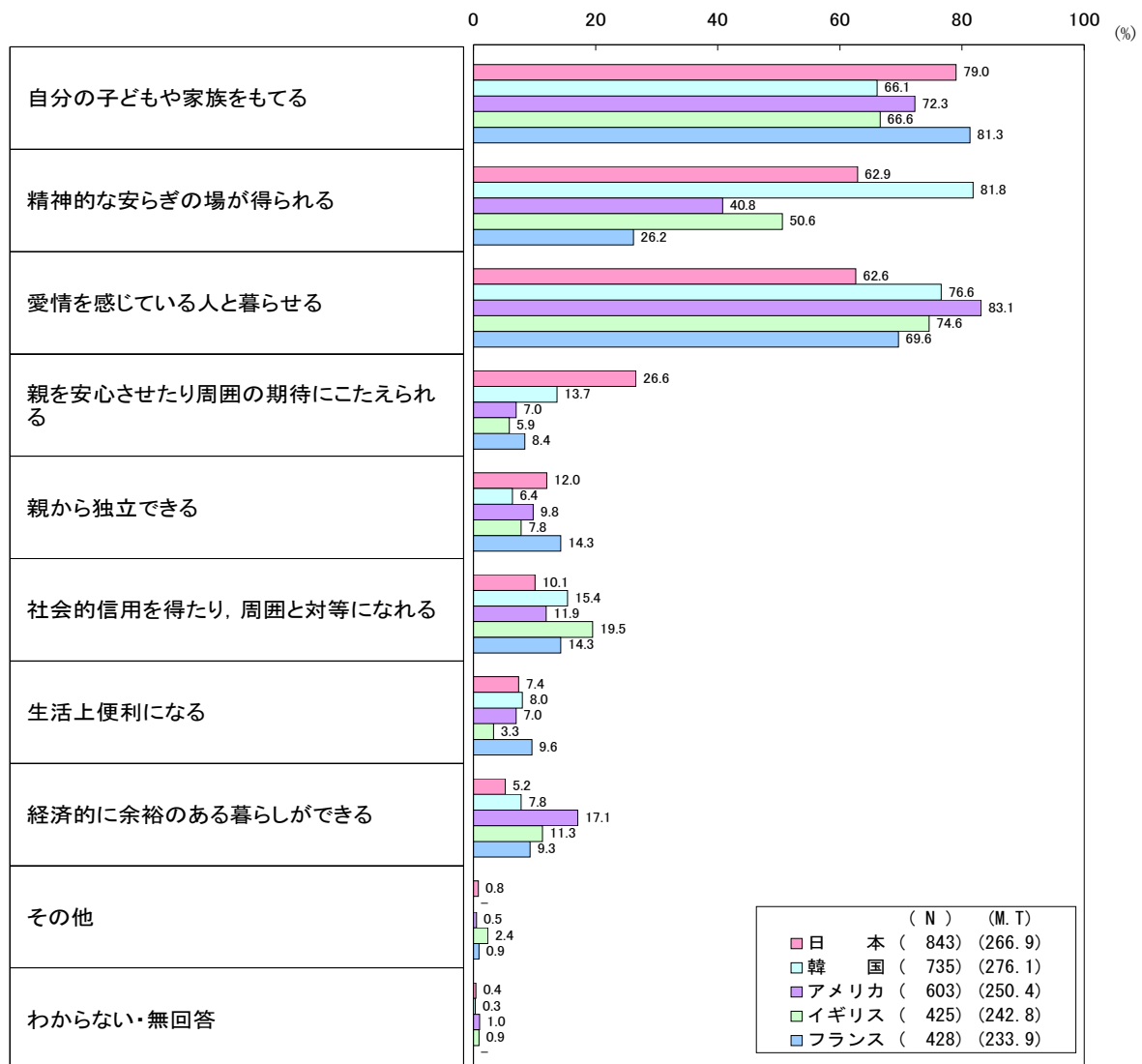
○ 日本 (Q53、P115・116)

- ・「自分の子どもや家族をもてる」(79.0%)、「精神的な安らぎの場が得られる」(62.6%)、「愛情を感じている人と暮らせる」(同)

○ 5か国比較

- ・日本とフランスは、「自分の子どもや家族をもてる」がもっとも高い。韓国は、「精神的な安らぎの場が得られる」、アメリカとイギリスでは、「愛情を感じている人と暮らせる」がもっとも高い。
- ・「親を安心させたり、周囲の期待にこたえられる」は、日本がもっとも高い。

【 結婚したほうがよい理由 】



結婚しないほうがよい理由

- ◆ 結婚しないほうがよい理由：日本では、「自分の趣味や娯楽を楽しむことができる」がもっとも高い。（Q54、P117・118）

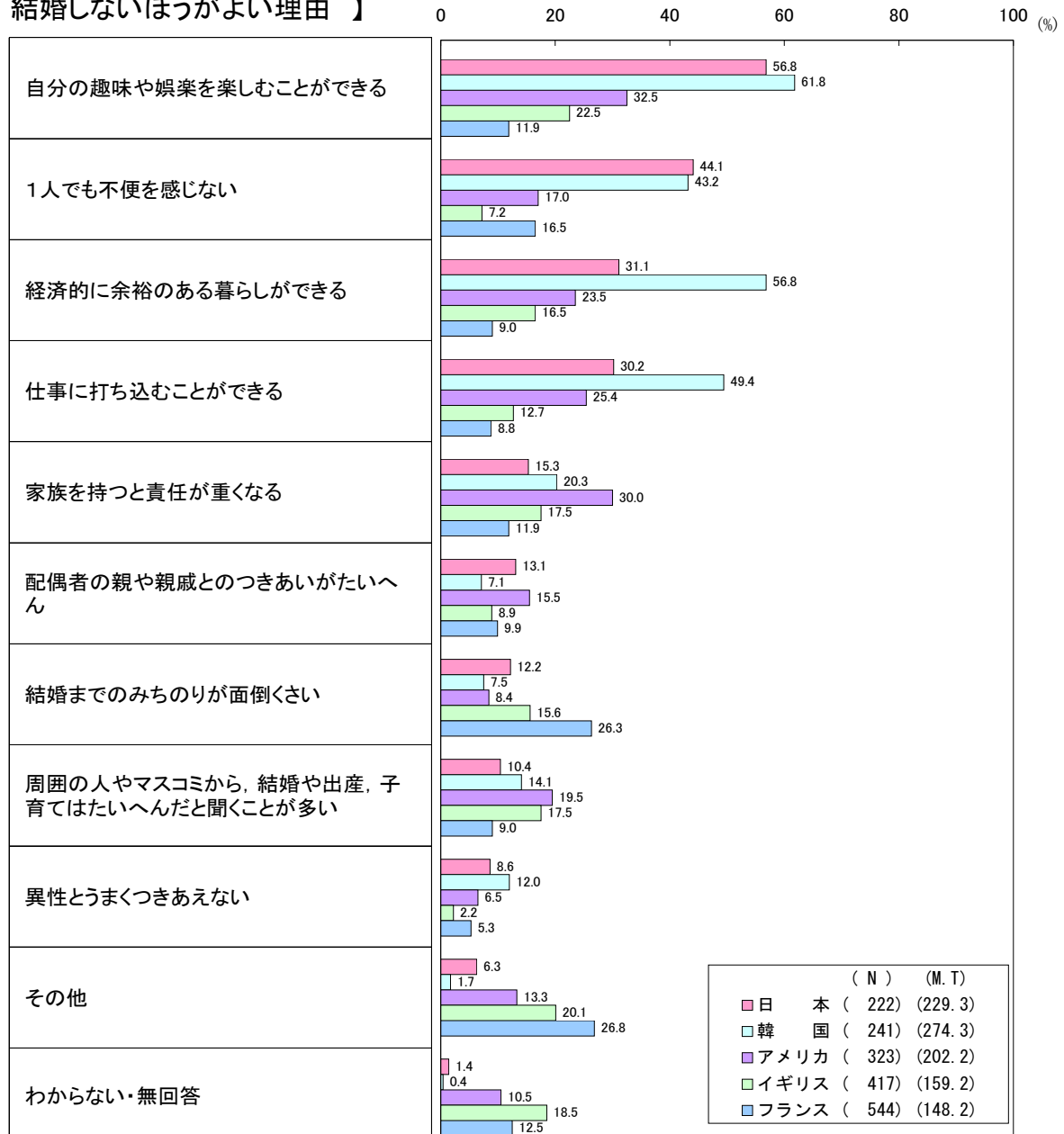
○ 日本

「自分の趣味や娯楽を楽しむことができる」(56.8%)、「1人でも不便を感じない」(44.1%)、「経済的に余裕のある暮らしができる」(31.1%)

○ 5か国比較

- ・ フランス以外の4か国で、「自分の趣味や娯楽を楽しむことができる」がもっとも高いが、特に、日本、韓国において顕著である。

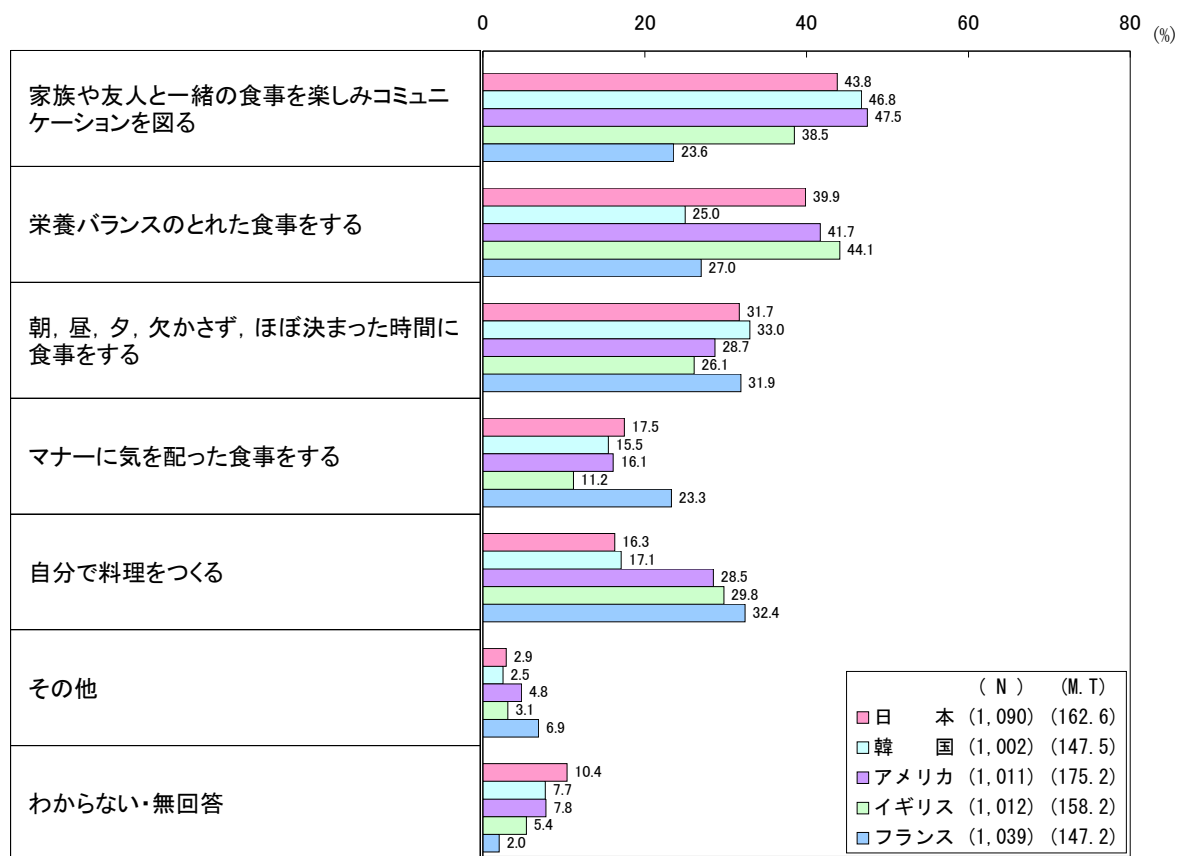
【 結婚しないほうがよい理由 】



食生活の心がけ

- ◆ 日本では、「家族や友人と一緒にの食事を楽しみコミュニケーションを図る」がもっとも高く、次いで「栄養バランスのとれた食事をする」。(Q27、P19・20)
 - ◆ 「規則的な食事」の心がけは、約3割。他国と比べても大きな差はなし。
 - ◆ 「自分で料理をつくる」は、5か国でもっとも低い。
- 5か国比較
フランス(32.4%)、イギリス(29.8%)、アメリカ(28.5%)、韓国(17.1%)、日本(16.3%)

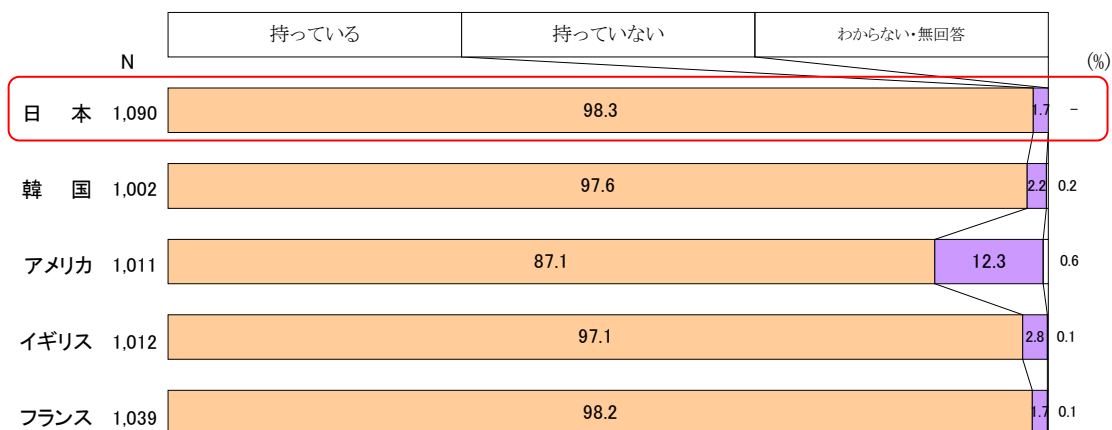
【 ふだんの食生活で心がけていること 】



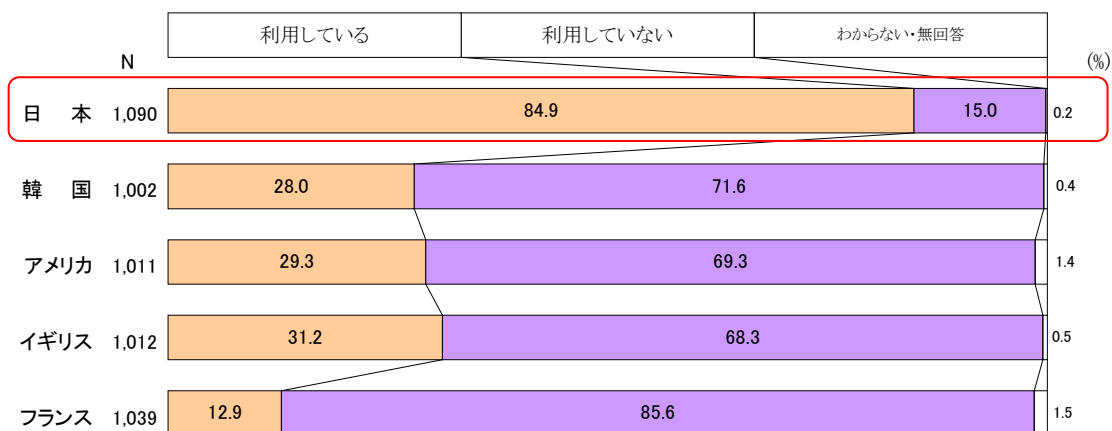
インターネット情報環境関係

- ◆ 携帯電話は、アメリカ(87.1%)を除く4か国でほぼ100%近い所有率。(Q38、P85)
- ◆ 携帯電話でのインターネット利用は、日本において顕著であり、日本以外の4か国は、パソコンによるインターネット利用が中心。(Q39・40、86・P87)

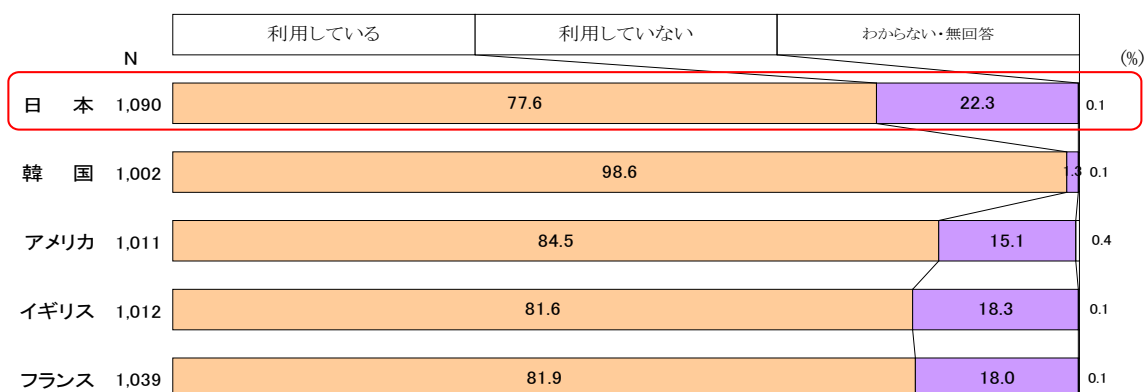
【 携帯電話の所有 】



【 携帯電話でのインターネット利用 】



【 パソコンでのインターネット利用 】



インターネット利用で体験したトラブル等

◆ 日本では、「迷惑メール」がもっとも多く、次いで「有害情報」、「不当請求、架空請求等」

- ・「迷惑メールが頻繁に送られてきたことがある」(44.2%)、「18歳未満の子どもにとって有害な情報を含むサイトを見たことがある」(16.5%)、「不当請求、架空請求を受けた、オークションやインターネットショッピングで被害にあった」(15.6%)

◆ 韓国、アメリカにおいて、トラブル等の経験が特に多い。

- ・「迷惑メールが頻繁に送られてきたことがある」:
アメリカ(65.4%)、韓国(64.1%)、イギリス(53.9%)、日本(44.2%)、フランス(34.1%)
- ・「18歳未満の子どもにとって有害な情報を含むサイトを見た」:
韓国(43.3%)、アメリカ(42.5%)、イギリス(21.3%)、フランス(18.5%)、日本(16.5%)
- ・「不当請求、架空請求を受けた、等」:
アメリカ(25.6%)、日本、(15.6%)、韓国(11.3%)、イギリス(10.6%)、フランス(7.4%)

